

教育広報

南 会

編集・発行 福島県教育庁南会津教育事務所  
発行責任者 埴 広治  
編集協力 市町村教委連絡協議会南会津支会  
南会津郡小中学校長協議会

## 『隗より始めよ』

福島県教育庁南会津教育事務所長

埴 広治

昨年度の終わりから今年度にかけて、思ってもいないことが起こっている。今までの教員人生の中でも経験したことがない全国一斉の「臨時休業」が続いた。東日本大震災以来ではあるが、台風や大雨による大水害などここ10年間で前例のない事態に数度巻き込まれている。

パンデミックは歴史上の話であり、医療技術が発達した現世で起こるはずはないと思っていた。否、思いあがっていた。東日本大震災の折も、原子力発電所は何重にも安全管理が施されているから、決して大事故は起こりえないと楽観していたことが痛い経験として蘇る。

中央教育審議会の答申（平成28年12月21日）では、「予測困難な時代に、一人一人が未来の創り手となるよう主体的に学び続けて自ら能力を引き出し、自分なりに試行錯誤したり、多様な他者と協働したりして、新たな価値を生み出していくために必要な力を身に付け、

子供たち一人一人が、予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を發揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていけるようにすることが重要である。」と述べられている。新学習指導要領が目指している“どんな社会の変化にも対応できる人の育成”であるが、今の我々自身がまさに試されている。教育に携わる我々が主体的に難局に対峙し、新たな道を開いていく様子を子供たちに教えることとなっている。

世の流れは、「先生が教える」から「子供がどう学ぶか」、ティーチャーからファシリテーターへと変わってきている。子供の資質・能力を育成するのが教育のプロとしての私たちの仕事だ。子供を変えようとするならまずは自分を変える。『バージョンアップ』することが求められている。『隗より始めよ』ですね。

## 『体験活動の大切さ』

南会津郡小中学校長協議会長

高橋 弘之

5月に2人目の孫が誕生しました。このコロナウイルス感染症の影響で、神奈川県逗子市に住む娘と2人の孫に会えずにいましたが、先日、ようやく会うことができました。とてもかわいらしい元気な男の子でした。時々笑顔を見せる孫の顔を見ながら、この孫が大きくなる頃には、どんな社会になっているのか、期待と不安が混じり合った複雑な気持ちになりました。

最近、とても気になることがあります。学校でのちょっとした怪我が多いことです。例えば、すぐ転ぶ。転んだときに手が出ず、顔面を打つ。鉄棒から落ちて顔面を打つ。歩いていたら足をひねって捻挫。はさみを使っていたら、自分の指を切ってしまった。また、友達とのちょっとしたトラブルで自分を抑えられずキレる子供も多くなったと感じます。

私が子供の頃は、友達と川で魚を捕ったり、山でカブト

ムシをとったり、外で遊んでばかりいました。悪いことをすれば親に怒られ、地域の方々にも怒られた記憶がよみがえります。カッターを使って手を切ったり、包丁でリンゴの皮をむいて手を切ったりと、本当にいろいろな体験をし、失敗や痛い思いを数多くしました。

今の子供たちは、体験を通していろいろなことを学ぶ機会が少なくなっていると感じます。しかし、体験から学ぶことはたくさんあります。命の大切さ、成就感や感動、思いやりや親切、善悪の判断・・・。今の子供たちにはとても大切な学習だと思います。学校でも、危険だとすぐにやめさせてしまうことが多くなっていますが、子供たちには、安全を優先させながら、いろいろな体験を多くさせ、失敗をする経験や悔しい思いを感じさせ、さらに、できる喜びや向上心、自己肯定感を高めさせていきたいものです。

南会津夢教育2020

～ 南会津の風土を踏まえ 一人一人が夢をかなえられる教育を目指して ～

南会津がつむぐ南会津ならではの学校教育

確かな学力



【域内学力向上担当者等研修会】

新学習指導要領が小学校で本年度、中学校では来年度に全面実施となります。次世代を担う子供たちの「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、「教員が何を教えるのか」ではなく「学習する子供」の視点に立ち、子供たちが主役となって「何をどのように学ぶのか」を重視して授業改善していくことが必要です。

6月に行われた域内学力向上担当者等研修会では、「令和2年度版 魅力あふれる授業づくり資料集」(南会津教育事務所作成)を配付し、その中で本年度の重点項目である以下の4つを確認しました。

【授業づくりの上で大切にしている項目】

- ① 単元構想の工夫と本時のねらいの明確化
- ② 魅力ある学習課題の設定
- ③ まとめ・振り返りの充実
- ④ 学習過程のポイントを押さえた授業案作成

※授業案作成上のチェックシートも含む

また、複式での指導について共通理解を図り、「南会津ならではの少人数教育」の充実について確認しました。(詳細は学校教育課だより第94・95・96号参照)

豊かなこころ



<道徳教育推進事業>

今年度の南会津地区道徳教育研究推進校は、檜枝岐小・中学校です。6月15日(月)に第1回校内研究会を実施しました。子供たちは「心のバロメーター」を使って自分の意見を発表しました。話し合いでは、友達の意見を踏まえて自分の考えを話し、考えを深める場面があり、一人一人が自分の考えを堂々と話す姿に感心しました。事後研究会では、小中学校の先生方がワールドカフェ形式で熱心に協議しました。地区別研究協議会は11月26日(木)を予定しています。研究の成果を共有できることが楽しみです。

<いじめ未然防止に向けた道徳科の授業>

新型コロナウイルス感染症に関連しての「いじめ」も懸念されます。今年5月に「新型コロナウイルス感染症拡大に伴ういじめ未然防止に向けた道徳科の授業について」が福島県教育委員会義務教育課のホームページに掲載されました。小学校分(低学年、中学年、高学年に分かれて)と中学校分の資料があります。「公正、公平、社会正義」の内容項目において各校の実態を踏まえて、御活用ください。

健やかな体



新型コロナウイルス感染症拡大防止のために断続的な臨時休業が余儀なくされました。それが、子供たちに与えた影響は大きなものがあります。6月に小学校全校を訪問し、子供の様子を伺ったところ、「筋肉痛を訴える子が増えた」「疲れやすくなっている」「体重の増加が心配」などの声が聞かれました。こうした健康課題に対応するために、健康教育課より「ふくしまには、これがある!!」が出されました。

積極的な活用で、児童生徒の健康課題の克服を

- 毎時間の授業で! 『運動身体づくりプログラム』
- 運動機会の創出に!  
『ふくしまっ子児童期運動指針』
- 望ましい食習慣形成に! 『ふくしまの食育』
- 効果的な肥満対策に! 『肥満対応ガイドライン』

臨時休業中、全職員で運動身体づくりプログラムの研修を行った学校がありました。また、この期間に、「ふくしまっ子児童期運動指針」を参考に、校内に「場のしかけ」を作った学校もあります。

運動不足、肥満傾向の子供たちのために、意欲の向上を喚起するような工夫、楽しみながら運動量を増やせるような場や環境の設定をしてみましょう!

特別支援教育の充実



<特別支援・生徒指導担当指導主事訪問>

今年度の訪問では、進学時における個別の教育支援計画の引継ぎ状況について情報交換をしました。特別な教育的ニーズを有する児童生徒にとって、必要な支援を小・中・だけでなく高・大・就労と切れ目なく引き継いでいくことは、新たな場で支援を安定的に受ける上で必要不可欠です。

特別支援学級だけでなく通常の学級に在籍し、個別の教育支援計画を作成している児童生徒についても、本人・保護者の了解を得た上で、個別の教育支援計画を引継ぐことが必要です。通常学級に在籍する特別な教育的ニーズを必要とする児童生徒においても、自立を願い、積極的な作成をお願いします。

<巡回型通級指導>

一昨年度から域内の巡回型通級指導を実施しています。通級指導担当教員によるSSTを中心とした指導により、人間関係づくりがスムーズになったという成果が多く寄せられています。成果をもとに集団生活での学びの充実をよろしく願います。



# 南会津がつむぐ南会津ならではの社会教育

今年度も社会教育課では、「地域学校協働の推進」「家庭の教育力向上」「子供たちの豊かな心の育成」の三つの柱のもとに、学校・家庭・地域が一体となった社会教育の実現をめざしています。

その具現化に向けて、前年度の各研修会の参加者の意見や感想をもとに、研修内容に改善を加え、各事業の立案に取り組んでいます。「前年度踏襲は後退を意味する」を教訓として取り組む中で、新型コロナウイルス感染拡大防止による研修会の制限や延期、さらには中止など、頭を抱えることも多くありました。しかし、この機会を「十分に検討する時間を得た」と捉え、参加者にさらに満足していただける、より充実した研修会の準備にあてておりました。

その中で新しい視点で研修を見直そうと浮かび上がったのが、「体験を通して楽しめる研修」です。先進的な実践の紹介や専門的な講演・講話に加え、体験活動を取り入れることで参加者が満足し、さらに研修会のねらいが達成できる魅力あるものとする予定です。

今後は域内4町村の「横のつながり」の充実を視野に入れ、各担当者と連絡・調整を図ることで、南会津が一体となった地域づくり・事業展開となるよう取り組み、「南会津ならではの社会教育の実現」を目指します。



【昨年度 家庭教育支援者南会津地区研修会での一コマ】






## 南会津夢教育学校紹介 ～ 南会津っ子一人一人の夢実現のために ～

### 「幼・小・中連携による『館岩の教育』」

「館岩中学校区には、幼稚園、小学校、中学校がそれぞれ1つずつある。」この地域の特色を生かし、長いスパンでの学びの連続性を意識した幼・小・中連携を推進しています。ここでは、その取組の一端を紹介します。



**(幼)アプローチカリキュラム・(小)スタート・カリキュラムの充実 小中連携の授業**

<p><b>円滑な 接続</b></p>	<p>〈にこにこ給食〉 小学校のお兄さん、お姉さんたちと年長の幼稚園児と一緒に給食を食べることを通して、社会性の伸長と小学校への円滑な接続を目指します。運動会や学習発表会も合同開催しています。</p> 
<p><b>地域の 良さを 知る学び</b></p>	<p>〈ゴルフ学習〉 小学生でゴルフのマナーと基礎を学びます。基礎を身につけた中学生は、ゴルフ場のコースで1日じっくり練習をし、ゴルフの楽しさを味わいます。</p> 
<p><b>学びの 質の向上</b></p>	<p>〈公開授業事後研究会〉 年2回の公開授業研究会を実施し、4つの部会に分かれ指導力向上とより良い連携のあり方を検討しています。</p> 

この他にも、幼稚園と小学校で長期休業中の生活ワークシートを共有・実施し、幼稚園の年長児が小学校入学にむけて生活リズムを整えていく取組を始めました。また、小中学校では、漢字検定を共同で実施したり、先生方がキャリアパスポートの活用に向けて定期的な打合せを実施したりするなど、連携を進めています。今後、幼小中連携を教育課程に整理するなど『館岩の教育』実現に取り組んでいきます。

「ほんとうの空」  
下郷町立江川小学校  
校長 五十嵐 真由美

徳島出身の私が縁あって福島の体育教員になって 25 年。福島に来るまでは、同じ日本国内で「とくしま」と「ふくしま」は一文字違いで似ているように思っていました。しかし、実際に暮らしてみると、雪の中での生活など風土はまるでかけ離れたもので、慣れるまでにはいろいろと苦労がありました。

今までの教員生活を振り返ってみると、ここ福島で同僚や子供たち、保護者や様々な地域の方々との出会い、助けや支えをいただいたり、達成感や悲しみを乗り越えようと夢中になったりした日々がありました。また、東日本大震災や豪雨災害など様々な困難に負けない風土、お互い様という温かな地域性に触れる機会が幾度となくありました。その中で私は、いわば第二のふるさと福島に育てられたといっても過言ではありません。

校長という、次の将来を担う人材育成を任せられる立場になって思うことは、困難に打ち克つ心を持って、大切なふるさとに貢献できる子供たちを一人でも多く育てていくことが、福島に対するせめてもの恩返しかな、ということです。

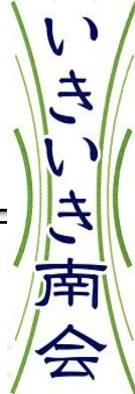
「江川っ子よ ほんとうの空に とべ！」

「南会津－えん－」  
南会津町立南会津中学校  
教頭 齋藤 英久

『遠』100km。昇任内示があり須賀川の自宅アパートから南会津中までを検索した距離が表示され、思わずつぶやきました。初任地が双葉で小野、須賀川を回り、今回の異動でほぼまっすぐ県を横断したこととなります。「はまなかあいづ」コンプリートです。

『縁』縁あれば千里一縁があれば千里も離れた所の人と会うこともあるし、結ばれることもある意。校長先生とは以前勤務していた学園行事でお目にかかっており、母校柵倉中で勤務されていた先生や、須賀川からこちらに異動された先生、講師時代にお世話になった先生、同期採用の先生など、初めてだと思っていた南会津はたくさん縁で結ばれていました。生徒や保護者の方々、地域の皆さんとも新しい縁がつむがれ、毎日毎日、新たな南会津の魅力を発見しています。

『円』朝の始まりから笑い声の響く南会津中。生徒も先生方も中学校生活を満喫しています。今年度の本校スローガンは「ゼロで伸びよう！ゼロで伸びよう！」チーム南会中、ストレス感ゼロで取り組んでまいります。



「新たな気持ちで」  
檜枝岐村立檜枝岐中学校  
教諭 古川 裕梨

新採用教諭としての勤務がスタートし、檜枝岐中学校で毎日充実した日々を送っています。南会津地域には講師として1年間勤務していたこともあり、再びこの地域で勤務できることを嬉しく思っています。

檜枝岐村は歌舞伎や尾瀬で有名で、自然や伝統をととても大切にしています。生徒は学校行事で山々を登り、文化祭では歌舞伎を演じます。生徒の様子からも檜枝岐の自然や伝統を大切にしていることがよく分かります。

檜枝岐村には山人料理や曲げわっぱなど、まだ私がよく知らないものがたくさんあります。これから生徒と一緒に学んでいきたいと思えます。

新採用教員として新たな気持ちで勤務をスタートしましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、思うような教育活動ができないこともありました。生徒たちにとっても変化や困難のある年となることが予想されますが、共に乗り切っていきたいと思えます。また、教員として成長するために、先生方の姿を見て学びながら自分のスタイルを見つけていきたいと思えます。



「新任教員として」  
只見町立只見小学校  
教諭 千葉 卓嗣

着任してから3ヶ月が経ちました。只見の人の温かさや美しく雄大な自然に囲まれた生活は、毎日新しい発見があり、かけがえのない時間となっています。

只見小学校への内示が出たときは、ガッツポーズをして喜びました。大学生の時に二度、只見町を訪れていたの、これも何かのご縁かと思いました。一度目は、大学1年のときです。真冬の只見町に行く大学の企画があり、こういう機会でもなければ只見町に行くこともないだろうと思参加しました。このときは明和小を訪問し、子供たちと縄跳びやゲームをして触れ合いました。昨年12月、卒業論文の調査のために、明和小と朝日小を訪れたのが二度目の訪問です。このときも、素直で明るい子どもたちと触れ合い、このような子供たちと一緒に勉強したいという思いを強くしました。着任して、訪問したときにお世話になった先生方や地域の方に声をかけていただき、毎日充実した生活を送っています。

新型コロナウイルス感染症のため、慌ただしいスタートとなりましたが、何事にも素直にたくましく取り組む子供たちのために、しっかりと成長を見守り、私自身も子供たちとともに成長して参ります。

編集後記

「新しい校長先生はどんな方かな?」「教頭先生は?」「新採用の先生は?」・・・。  
新型コロナウイルス感染症拡大予防で様々な会議や研修会が延期や中止になり、まだ域内の新しい先生方と出会えていないのではないのでしょうか。この広報「南会」を通して、一部ではありますが「新しい出会い」をしていただければと思います。  
学期末でご多用の中、玉稿をお寄せくださった皆様に心より感謝申し上げます。

